

(写)

令和3年3月19日

大阪府教育委員会 様

大阪府医師会学校医部会
(公印省略)

学校における新型コロナウイルスにかかる変異株への対応について

平素は、本部会の学校保健活動に格別のご尽力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、先般、お問合せのありました標記の件につきまして、本部会で新型コロナウイルス感染症に関し、ご講演をいただいた富山大学医学部小児科学講師の種市尋宙先生と大阪市立総合医療センター小児救急科部長の天羽清子先生にご意見をいただきました。下記の通り、纏めましたので、今後、現状を踏まえて、学校運営を行われるにあたり、ご参考にいただければ幸甚に存じます。

記

新型コロナウイルスの変異株（英国株）は大阪でも増加しておりますが、現時点で明らかになっていることは「①感染力が強い（これまでの1.7倍）」「②英国において、感染者割合は成人と子どもの間において、これまでに流行していた株と差はない」「③子どもに感染しても、これまで同様に無症状か軽症である」の3点が挙げられます。

今後、日本でも感染者数が増加する可能性があります。従いまして、小児感染者も絶対数として上昇することが考えられます。しかし、日本のメディアで言われている「子ども危険説」は微増に留まっている英国において、大丈夫だと判断されています。

一方で、これまでになかった、保育所や放課後等デイサービスのクラスターが日本でも報告されています。特に、乳幼児はマスクなど感染対策が難しく、今後の保育所での感染拡大が懸念されます。これまでの報告では、子どもが罹患しても従来同様に軽症ですが、子どもから保護者や高齢者に感染すると、再び、重症者が増える恐れがあります。

大阪における事例ですが、大人と乳幼児と児童が変異株に感染し、そこから乳

幼児施設に広まりました。しかし、マスク等の対策を行っていた小学校では、流行が見られなかったと報告されています。

ワクチンの接種年齢が 16 歳以上であることを考慮に入れつつ、現時点では、怖がりすぎることなく、出来る限りの対応をしていくことが、望ましいと考えます。